

福井県議会ブラジル訪問団報告書

(ブラジル福井県文化協会創立 70 周年記念式典参加)

日 程 令和6年8月28日(水)～9月4日(水)

訪問地 ブラジル連邦共和国 サンパウロ州

福井県議会ブラジル訪問団

福井県議会議長	宮 本 俊
福井県議会議員	細 川 かをり
福井県議会議員	田 中 三津彦
福井県議会議員	大 和 久米登
福井県議会議員	森 嘉 治

(随 行) 福井県議会議会局総務課課長補佐 和 田 恭 典
福井県議会議会局総務課主任秘書 江 守 紀 章

福井県議会ブラジル訪問団日程
(ブラジル福井県文化協会創立 70 周年記念式典参加)

月 日	日 程
8月28日(水)	福井発⇒小松空港発(14:50)⇒羽田空港着(16:05)(JL188) 羽田空港発(18:30)⇒ニューヨーク(J・F・ケネディ空港)着(18:30) (JL004) ニューヨーク(J・F・ケネディ空港)発(22:35)⇒
8月29日(木)	⇒サンパウロ(グアルーリョス空港)着(9:15)(JL7200) (グアルーリョス空港からサンパウロ市内へ移動(約2時間)) 14:00～16:00 サンパウロ州政府表敬訪問 ＜サンパウロ市泊＞
8月30日(金)	8:30～9:30 開拓先没者慰霊碑参拝(イビラブエラ公園) 10:00～11:00 在サンパウロ日本国総領事館訪問 11:30～12:30 ブラジル日本移民資料館見学 14:00～15:00 ジャパン・ハウス サンパウロ視察 15:30～16:30 リベルダーデ地区視察 ＜サンパウロ市内泊＞
8月31日(土)	11:00～15:00 福井村訪問(サンミゲル・アルカンジョ市) (歓迎式典、歴史資料館・日本語モデル校視察) ※サンパウロ市から福井村までは片道約3時間 ＜サンパウロ市内泊＞
9月1日(日)	10:00～15:00 ブラジル福井県文化協会創立70周年記念式典 (記念式典、協定調印式、祝賀会) 15:00～16:00 ブラジル海外技術研修員OBOGとの懇談会 (終了後、グアルーリョス空港へ移動) ※22:20 サンパウロ発のJL7205便が欠航となったため、宿泊に変更 し、以降の行程(搭乗便)を変更 ＜グアルーリョス市内泊＞
9月2日(月)	サンパウロ(グアルーリョス空港)発(11:00)⇒ ニューヨーク(J・F・ケネディ空港)着(19:50)(AA950)
9月3日(火)	ニューヨーク(J・F・ケネディ空港)発(1:30)⇒
9月4日(水)	⇒羽田空港着(4:45)(JL003) 羽田空港発(7:10)⇒小松空港着(8:05)(JL183)⇒福井着

※時間は現地時間

サンパウロ州政府表敬訪問

- 1 日 時 令和6年8月29日（木）14:00～16:00
- 2 場 所 バンデランテス宮殿州政府正庁（サンパウロ市）
- 3 参加者 〔福井県議会〕
宮本俊議長、細川かをり議員、田中三津彦議員、大和久米登議員、森嘉治議員
和田総務課課長補佐、江守総務課主任秘書
〔福井県〕
中村副知事、大塚産業労働部長、谷口国際経済課企画主査
- 4 同行者 ブラジル福井県文化協会
西村純子会長、川崎省三副会長、山下広治副会長
- 5 応対者 サンパウロ州政府
フェリシオ・ハムート 副知事
野村アウレリオ サンパウロ市議会議員（同席）

6 概 要

まず、ハムート副知事が挨拶し、「このような機会を通じ、日本とブラジル、サンパウロと福井県の親睦が深まることを喜ばしく思う。サンパウロ州、サンパウロ市は、ブラジルで日系人が最も多い地域である。今後、文化、教育、経済の絆を強くしていくことができると確信している」と語った。ハムート副知事からは、サンパウロ州についてのプレゼンテーションも行われ、「日本は勤勉や歴史を尊重することにおいて模範である」とも述べた。

次に、中村副知事が挨拶し、「福井県とブラジルは昔からつながりが深いのが、近年は飲食・サービス業など特徴的な分野で海外技術研修員を受け入れている。福井県内に多くの方がブラジルから働きに来られ活躍いただき、ブラジルでもブラジル福井県文化協会をはじめ福井県ゆかりの方が活躍いただいております。今後、相互に理解を深め親交を深めてさせていただきたい。福井は昔からの日本が残っている県である、ぜひお越しいただきたい」と話した。

次に、宮本議長が挨拶し、創立70周年となるブラジル福井県文化協会の概要について紹介した後、「地元越前市は県内で最も多くのブラジルの方が居住され製造業などで活躍いただいている。今後もブラジルと日本、サンパウロ州と福井県が、経済、観光、文化やスポーツ等様々な分野で交流が深まることを願う。州政府におかれても、ブラジル福井県文化協会、ブラジル福井村の発展に引き続きの支援を願う」と語った。

意見交換の中では、宮本議長から議会等における行政庁の対応について質問があり、ハムート副知事から、公的な面で州議会議員、市議会議員が住民を代表しているのに対し、行政庁としても市民や議会との議論を進めていること、税金をうまく回すよう努めていること、法案には長期的な課題に関するものが多いため、その制定には議会に対しても時間と忍耐強

い対応が必要であることなどの説明があった。

関連して、野村サンパウロ市議会議員からは、「旧市街地の活性化のための政府庁舎を移転させる法案など必要に応じて短期間で成立するものもある」との説明があり、併せて「日本以外で一番日本的な「まち」はサンパウロである」との紹介もあった。

細川議員は、「地元越前市の企業では日系のブラジルの方も多く雇われ技術者として厚い信頼を受けている。ブラジルは農業大国でもある。日本の人口減少への対応、食料確保についてもお力添え願う」と述べた。

西村会長からも、福井県訪問団の受け入れについて感謝が述べられた。

表敬訪問後、バンデランテス宮殿内の見学を行い、サンパウロの歴史を表現した絵画などについて説明を受けた。

《訪問議員による所見や提案》

- ・福井県からの移民を含む、日本人の政治、経済、文化などブラジルにおける影響力は大きいものがあり、ブラジル政府としてもその影響力をととても重要なものであると理解していると感じた。
- ・ハムート副知事による日本は勤勉であり、歴史を尊重しているとの思いを受けて、今回のような訪問が日本とブラジルやブラジルの日系人との親交の深まりにつながっていると感じた。
- ・サンパウロ州の行政、議会の状況の一部を見聞し、国による制度等の違いはあるものの、議員が住民を代表していること、法律の制定に時間や調整が必要であることなどは変わらないとの認識を深めた。
- ・州政府の建物全体に芸術作品が豊富に掲げられており、サンパウロ州の産業や歴史などが感覚的に理解できた。こうした表現方法については、福井県庁も参考にしてほしい。



ハムート副知事挨拶



中村副知事挨拶



宮本議長挨拶



意見交換



ハムート副知事とともに



宮殿内の絵画

開拓先没者慰霊碑参拝

- 1 日 時 令和6年8月30日（金）8：30～9：30
- 2 場 所 イビラプエラ公園内（サンパウロ市）
- 3 参加者 〔福井県議会〕
宮本俊議長、細川かをり議員、田中三津彦議員、大和久米登議員、森嘉治議員
和田総務課課長補佐、江守総務課主任秘書
〔福井県〕
中村副知事、大塚産業労働部長、谷口国際経済課企画主査
- 4 同行者 ブラジル福井県文化協会
西村純子会長、川崎省三副会長
- 5 応対者 ブラジル日本都道府県人会連合会
谷ロジョゼ眞一郎 会長

6 概 要

慰霊碑に参拝、献花（事前に供え）、慰霊碑の地下にある祭壇に線香を手向け、参拝記録簿に記帳、先没者の方々のご冥福を祈念した。

参拝にあたり、谷口県人会連合会会長（和歌山県人会長）から、以下の説明があった。

- ・「先没」とは、初代移民の開拓者の中で住宅環境、言語、文化や習慣の違いなど過酷な状況で懸命に働くも、マラリアの蔓延等もあり道半ばで他界した多くの方々のことを指す。亡くなられた方は自宅近くに葬られやがて無縁仏となったが、その方々のために慰霊碑が建立された。
- ・毎年6月18日のブラジル日本人「移民の日」に、ブラジル日本都道府県人会連合会とブラジル仏教連合会の共催で、日系社会の代表者約60名が集まり、開拓戦没者追悼法要が営まれている。
- ・霊安室の祭壇の過去帳には、無縁仏のほか、慰霊碑建立に貢献した当時の日系社会のリーダー、戦前移民のうち船内で病気により亡くなり上陸できなかった約500名のものがある。

（参考）

慰霊碑の完成は1975年8月22日。黒御影石で田中角栄首相による「開拓先没者慰霊碑」の碑銘が入っている。完成の序幕式には日本から福田赳夫副総理らが出席して行われた。地下の霊安室には、平和観音像、物故者過去帳、各県人会別の過去帳が収められた。後に、日本から観世音菩薩と地藏尊像が贈られた。

《訪問議員による所見や提案》

- ・ 開拓戦没者慰霊碑が、都道府県人会連合会などのご尽力により、きちんと手入れ・管理されていることに、心より敬意を表したい。
- ・ 先人の尊い犠牲やたゆまぬ努力のおかげで今があり、谷口会長の言葉にはその重みを感じた。



慰霊碑に関する説明



慰霊碑に関する説明（谷口会長）



地下祭壇（参拝）



参拝簿への記帳



慰霊碑前にて



慰霊碑前階段下にて

在サンパウロ日本国総領事館訪問

- 1 日 時 令和6年8月30日（金）10:00～11:00
- 2 場 所 在サンパウロ日本国総領事館（サンパウロ市 パウリスタ通り）
- 3 参加者 [福井県議会]
宮本俊議長、細川かをり議員、田中三津彦議員、大和久米登議員、森嘉治議員
和田総務課課長補佐、江守総務課主任秘書
[福井県]
中村副知事、大塚産業労働部長、谷口国際経済課企画主査
- 4 同行者 ブラジル福井県文化協会
西村純子会長、川崎省三副会長、西川修治相談役
- 5 応対者 在サンパウロ日本国総領事館
清水 享 総領事
小室千帆 首席領事
鶴川章大 副領事

6 概 要

まず、清水総領事から資料に基づきサンパウロの概要について説明を受け、次に、中村副知事、宮本議長が挨拶を行った。

その後、意見交換が行われた。（概要は、以下のとおり）

（清水総領事）

- ・サンパウロ州は、ブラジル経済の3分の1を生み出しているイメージである。ブラジル全人口の約5分の1であり、もし独立していれば隣のアルゼンチンをしのぐ。経済構造も全ての分野でトップであり、コミュニケーションもとりやすく、ビジネスパートナーとしても仕事がしやすい地域である。
- ・日系社会については、日系人はブラジル全体で約270万人であり、その半分以上がサンパウロ州内に在住している。日系団体の所在地もサンパウロ州に集中している。サンパウロ州内の主要都市には必ず日系人の移住地があり、人口の10%が日系人のところもあり、日系人の存在は大きい。
- ・福井県にも多くの日系人を送り出しているが、先人のおかげで、日本は、日系人以外からも勤勉さ、正直さが信頼されて、ビジネスにおいても長期的に付き合えるとの評価を受けている。こうした好意的なまなざしは、ブラジルは他の国と全然違う。
- ・福井県の物産の海外輸出や、主要産業である製造業などの分野でビジネスパートナーを見つける上で、距離は遠いものの、質ではかけがえのない存在になると思う。

- ・文化面では、ジャパン・ハウスサンパウロが7年前にオープンして、日本を発信する一大拠点となった。ロンドン、ロサンゼルスにもつくられたが、サンパウロが直近では来館者数が約400万人を超えており1番評判が良い。土日は行列待ちが発生している。各都道府県に物産のイベント等で活用いただいております、福井県からも相談いただければ、ジャパン・ハウスと仲介し助言もさせていただきます。
- ・来年は、ブラジルと日本の外交関係樹立130周年の節目となり、1年を通じて様々なイベントが日本とブラジル相互で行われる。更に、大阪・関西万博があり、万博に行く関係者もあり、ルーラ大統領の訪日予定も聞いている。盛り上げていける好機であり、来年を活用しない手はない。福井県立大学にもブラジルとの関係強化を検討していただいている。
- ・福井県のために、できることは支援申し上げたい。

(中村副知事)

- ・ブラジルやサンパウロで、日系人、県人会をはじめ、福井県ゆかりの方が活躍されていることは誇りである。
- ・次世代の交流のあり方は、今後のサンパウロと福井のつながりに大きく関わってくる。
- ・大阪・関西万博があり、その国際交流プログラムを活用し、9月に県立大学学生とブラジルとの交流もある。その前に県立大学、福井村、福井県人会との協定も締結するので、息の長い付き合いをさせていただきたい。
- ・最初のマインドや日本人の気質を代々受け継いでこられ、ビジネスパートナーとしても信頼されているとのことであるので、我々としても大事にしていきたい。
- ・福井県はものづくりの県であり、「食」も名産であるので、まずは県内企業のビジネスパートナーや商談のきっかけづくりをしたい。リモートツールも活用できると考えている。

(宮本議長)

- ・今回の訪問で、ブラジルやサンパウロとの距離は遠いが、心の距離は非常に短く、今のままではもったいないと感じた。
- ・福井県ではブラジル国籍の方が約3,400人いるが、越前市ではそのうち約2,900人が大きな工場の働き手として来ていただいております、市当局により多文化共生のプログラムも実施されている。
- ・県としては、産業労働部で関連の事業を進めていくと思うが、議会としても、今回の訪問を通じて可能性を捉えながら、予算などにおいても前向きに検討していきたい。
- ・今後とも、福井県に特段のご配慮をお願いしたい。

(西川相談役)

- ・福井村の入植60周年記念式典、今回の福井県人会創立70周年記念式典にも、多くの福井県関係者にブラジルを訪問いただき、感謝申し上げます。
- ・県の谷口氏には、JICA青年ボランティアとして、福井村の日本語モデル校で2年間日本語教師として働いていた関係もあって、今回の大阪・関西万博に関する企画のきっかけをつくっていただいた。その結果、国際交流プログラムとして、9月18日から谷口氏、県立大学の石丸教授と学生3名が、ジャパン・ハウスで福井県のPRを行い、福井村ではお互いの国

の料理などを通じた国際交流を予定している。

(清水総領事)

- ・人の交流は続けていただくことが大切だと思う。他都道府県との話の中でも、予算が限られる中で、地球の裏側のブラジルとの国際交流親善事業が優先順位で一番になることはないことは共通している。しかし、都道府県の物産の輸出や労働力の確保など様々な面で、中長期的には人の交流が大きな意味を持つことも共通している。最近では、オンラインでもコミュニケーションができるし、スマートフォンも活用できる。
- ・例えば、福井県の眼鏡、越前漆器、日本酒の売り込みにあたり、英語になっているものをポルトガル語に翻訳するだけで効果が出てくる。翻訳業者を見つけること、見つかっても業務単価の課題があると思うが、研修生のOB、OGにお願いすればボランティアでやってくれる可能性がある。福井県ゆかりの人でなくても良い。
- ・物産や観光のホームページのうち1ページで良いので、「うける」コンテンツを翻訳し、それを総領事館のSNS等で取り上げれば、結構なフォロワー数があるので何万人も見えてくれる。そのうち1人でも福井県を観光してもらえれば良いことであり、中長期的には輸入希望者が出てくるかもしれない。
- ・インバウンド観光についても、日本の歴史・文化の深い部分、精神的なところに触れたいというように変わってきている。ブラジル人は日本の昔の価値観や偉人に対し関心が高い。ふくいの偉人の紹介ページもポルトガル語に翻訳し、橋本左内が安政の大獄で亡くなられた日を記念日として福井県人会に催しをしていただき、ホームページで発信するようなことも考えられる。
- ・先人の開拓者たちへの現代人としてのお返しにもなると思う。今回の訪問をきっかけに、こうした取り組みもぜひ進めていただければと思う。

(中村副知事)

- ・海外技術研修員として、ブラジルから福井県にこの40年間で約200名を受け入れている。今年も3名が県内企業で半年間の研修を受けるが、こうした研修員とつながるということも一つだと思う。
- ・パンフレット、ホームページのポルトガル語への翻訳も委託する企業がないということは事実だと思う。福井県の一番ヒットしそうなどころについても、我々から見たものと外から見たものは異なり、新たな視点があると思うし、新しいイベントもつくることも面白いと思ったので、こうしたことを複合的に考える必要があると感じた。
- ・福井県の伝統工芸は集積しておりアピールもしていきたいが、国や地域によって効果的な対応も違うと思うので、そのような観点も一緒に考えさせてほしい。伝統工芸は変わらないで残すことは大事であるが、一方で県内は美大もないことでデザインやアートの力が弱く人材も都会に流出してしまうので、その面でのお知恵もいただきたい。
- ・サンパウロには大きな力があるので、総領事にお力添えをいただきたい。

(田中三津彦議員)

- ・大阪・関西万博の国際交流プログラムは、昨年からの質問もしていたところであり、万博を機

会として、福井県とブラジルやサンパウロとの交流が増えて深まると良いと思う。

- ・外国人から印象的な日本の古き良き部分は伝統工芸にもあるが、宗教もあると思う。精神的にも魅力を感じる人も多いと思う。福井県には、曹洞宗の大本山永平寺もあり、白山にも白山信仰があり、33年に一度の平泉寺白山神社のご開帳行事が来年の5月にある。
- ・県当局にPRをお願いしていこうと考えているが、総領事にもお力添えをお願いしたい。

(宮本議長)

- ・伝統工芸については、地元越前市や丹南地域はその中心地であり、今年3月に開業した北陸新幹線の越前たけふ駅から、半径20キロメートル圏に、県内の7つの経済産業大臣指定の伝統工芸品のうち5つが集積しており、2、3日で全てを見て回るができる。
- ・現在はモノ消費からコト消費へと体験型に移ってきており、そのニーズとマッチするのではないか、遠いとの先入観で難しいと思ってしまうからこそ、逆に大きなマーケットが広がっているのではないか、実際には東京にさえ来てもらえれば福井には3時間で来ることができるということを思った。できるところから着手していければ良い。

(清水総領事)

- ・ブラジルの富裕層は食や宿泊など物質的な贅沢はし尽くしており、歴史と伝統に根差した部分に触れることを求めている人たちが増えてきていると思う。そこにお金をかけることは惜しまないと思う。
- ・いずれの伝統工芸品も魅力的であり、越前和紙については和紙の肌触りやエキゾチックなところを好きなブラジル人は多い。越前焼も銀座のアンテナショップに飾ってあったが、一旦通り過ぎようとして入っていった外国人も見た。そういうところが一つのカギになると思う。アートの導入もテクニクとして大事だと思う。
- ・伝統工芸をポルトガル語で発信していただき、我々としても発信やプロモーションをお手伝いできればと思う。
- ・日本人は優しいので相手に合わせようとするが、ヨーロッパ人は自分の腑に落ちて関心がなければ来ない。そういう意味で等身大の福井県を見てもらう、分かる人には分かるという姿勢でも良いのではないか。そこを合わせすぎると本来の姿から異なったものが出てきて、それを外国人は敏感に感じとる。明治維新当時の廃仏毀釈の動きに対し、外国人のフェノロサが日本の仏教美術の良さを発信したことで、日本人が再認識し岡倉天心による保存の取り組みにつながったこともある。
- ・一方で、多くの外国人が来ることで、結果として全体の本質が変わってしまうケースもある。インバウンドは全体のバランスがとれた形で発展していくことが大事である。
- ・素晴らしいものは既に存在しているので、発信のクオリティーを静かに上げることで、良質の外国人に見てもらい、良質な発信をしてもらうことを、いかにできるかである。

(細川議員)

- ・越前和紙にも無限の種類があり、かいたときの滲み方が違うのであるが、日本画や書道を好まれる人はいるのか。
- ・越前指物の木の技術は高い。木の工作に興味がある人はいるか。

- ・弓道など武道をされる人は多いのか。夫が弓道の指導者として全国を回っており、多いようであればSNSで発信を考えてみたい。

(清水総領事)

- ・越前が最も重要な産地の一つであることは知られておらず、越前和紙が良いと思う人はまだ少ないと思うので、日本の写経や日本画などに越前和紙が活用されていることも含め、ぜひ福井県自らが発信していただければ良いと思う。
- ・ブラジルも木の取扱いは多いが、日本とは木の種類が全く異なり、文化的にも木を工芸に使うことはほとんどない。箆箆については欧米人のほうが関心は高いと思う。実際に東京から帰国する際に買っていったところを見ている。
- ・武道は特に関心が高いと思う。柔道の人口は経験者を含め200万人とされ、ブラジルの人口の1%に当たる。弓道、空手、合気道なども日本のものは何でもひいきになる。日系人が約270万人おり、ブラジル人の知り合いには武道をやっている人ばかりだと思う。勝ち負けではなく技術や精神面に対する関心が高く、日本人の達人が超越的な力を生み出すと考える人も結構多いと思う。発信されればヒットすると思う。

(細川議員)

- ・和紙が一番売るのが難しく、売れなければ廃れてしまうので、ブラジルでも買っていただきたいと思っている。

(清水総領事)

- ・ジャパン・ハウスの物産展で和紙をテーマとしてもらい、日本酒も一緒に販売することなどもできると思う。日本酒は3万円代でも富裕層には普通に売れる。

(大和議員)

- ・ブラジルの日本に対する気持ちには深いものがあると思う。今までの海外勤務経験から、他の国とブラジルと違いはあるか。最初の移民であったポルトガルとの比較ではどうか。
- ・ブラジル国内で、サンパウロとリオデジャネイロの比較はどうか。また、アマゾン川流域は未開発なのか。

(清水総領事)

- ・スペインは、世界で5本の指に入るぐらい日本に対する関心は高いと思う。ただし、自分たちの視点を持ち性格がはっきりしているところがある。ニューヨークは、巨大都市であり、何かを実現するところという印象である。メキシコは、1,200社ぐらいの日本企業が進出しているが、性格はおとなしく態度を鮮明にしないところがある。
- ・第2次大戦後の日本に対し「ララ物資」という食料を世界から送っていただいたプロジェクトがあったが、ブラジルからは日系人のみならずブラジル人からも大変多くの支援が寄せられた。これに関し横浜港のJICAの研修センター横に昭和天皇の皇后の和歌が残された石碑がある。日系人を通じた、ブラジル全体の日本に対する信頼、損得勘定を抜きにした絶対的な愛着は大変なものだと思う。我々は、それが少しでも減らないよう努力しなければなら

ないと考えている。

- ・ポルトガルについては、ブラジルはポルトガル系の人が一番多い。日本、ドイツ、イタリアは移民として入ってきた人たちである。ブラジルは、他の中南米のスペイン語圏と違うのは、出身地に対するアイデンティティが前面に出てこないで融合するダイナミズムがあることである。
- ・日系人の場合は、アイデンティティは維持されるが、一方でブラジル社会への貢献という実績がある。特にブラジルの農業の発展は日系人の農業技術を抜きには成しえなかった。ブラジル人は、日系人は何かプラスをもたらしてくれること感覚的に分かっている。
- ・リオデジャネイロは、文化・歴史は、長い間首都でもあったので独特の魅力や良さはあるが、現代ではサンパウロと行政や治安など総合的に比較にならないと思う。
- ・アマゾンには、大きな都市では普通の生活ができるが、非常に広大であり船でしか行けないところも多い。釣りが盛んであり、富裕層では川釣りに行く人もいる。逆に未開の地はそう多くないと思うが、訪問すればそれなりの雰囲気は味わえると思う。

(大和議員)

- ・福井藩は、結城秀康、松平春嶽、由利公正など、優れた人材を輩出しており、よりアピールしていきたい。福井藩専門の博物館もあつたら良いと考えている。
- ・かつては日本海側が物流の中心であり、北前船以前にも、室町時代にできた海商法規「廻船式目」における3津7湊のうち、三国港は日本海側の南限の港であった。これは三国を起点に、北側には穀倉地帯が広がり、大陸から伝来した文化をしっかりと受け入れて産業が発達し地勢が高まったということである。
- ・こうした本来のものを提供して、それを分かる人に感じてもらうということには同じ意見である。今後とも、福井県として、しっかりと観光に取り組んでいきたい。

(清水総領事)

- ・外国では坂本龍馬や西郷隆盛は知られているが、幕末に重要な役割を果たした松平春嶽や橋本左内も余り知られていない。知ってもらいたいと思うし、啓発録は人間関係や倫理など内容がブラジル人好みであり、ぜひ翻訳いただいてはどうか。来年の外交130周年は日本も明治維新で国を開いた時期であり、そのタイミングで啓発録がポルトガル語になれば素晴らしいと思う。福井藩の資料館も三国港も同じ思いである。

(森議員)

- ・福井県には多くのブラジル人が労働者として来ていただいている。福井県に限らず日本全体で人口が減少していく中で、企業にとって労働力確保は大きな課題であり、外国人の労働力に頼らざるにはいられない。技能実習制度も2年後には育成就労制度に代わり、労働者が、日本国内で、各地域、企業も選ぶ仕組みになると聞いている。日本に好意的ことはありがたいが、ブラジルとして人口流出の面もあると思う。日本における労働への印象、労働力の提供による支障についてはどうか。

(清水総領事)

- ・日本への出稼ぎから戻りたくない人が一定割合にいるようである。文化等の違いを克服するつらさはあるが、全体的には肯定的に感じている人が多い。一方でブラジルの地方の日系社会の少子高齢化も進んでいる。
- ・送り手としては、労働力として、本人も儲かるからというだけではなく、祖国への憧れや価値をもって日本に行ってもらえる人が増えてほしい。
- ・日本としては、マクロで労働力が必要なため様々な制度を検討していくことは重要であるが、受け入れたコミュニティ、特に同じ地域の人が、マイナス面のしわ寄せを受けると、持続可能な関係を築くことはできない。
- ・日本の政策変更もあり 1990 年から急に在日ブラジル人が増えたが、当初は静岡県などにおいてもコミュニティでのトラブルがあった。受け入れる自治体の取り組みも重要だと思うが、行く人への教育は非常に重要だと思う。2000 年以降、ブラジルの日系社会でも、ゴミ出しのことまで盛り込んだパンフレットをつくるなどの努力している。そのおかげもあって、多くのブラジル人がいる浜松市や名古屋市も訪問したときは、共生が根付いてお互いの役割を認め合うような雰囲気があった。
- ・送り出す側として、日系社会とともに日本での文化を学んでから行くよう支援もしていきたい。受け入れ側の福井県としては、持続可能な形で住んでいただけるよう引き続き工夫をお願いしたい。

《訪問議員による所見や提案》

- ・清水総領事によると、日本といえば、その勤勉さ、正直さに信頼をもって接してもらえ、人々から好意的なまなざしを感じるのとのことであった。それらは、移民された時からの苦労や努力の上に困難を克服してきた日本人の姿があつてのことであり、その歩みに改めて感服した。逆に、日本にいる私たちには教えられることが多いと感じた。
- ・こうした日系人への評価から、ブラジルでビジネスパートナーを探すことには可能性が広がっていると考える。
- ・日本とブラジル、福井県とサンパウロとの間で伝統文化、観光や人材確保についてもテーマに交流を促進していくことが有効だと感じた。
- ・来日さえしてもらえれば、東京から北陸新幹線に乗って3時間で福井まで来ることができることを積極的にPRすることが重要だと考える。
- ・オンラインで労働力や物産の交渉ができることや、海外向けPRなどで英語をポルトガル語に直すだけで良いという提案を受けて、伝統工芸等のPR動画を働きかけたい。



副領事・総領事・首席領事



福井県訪問団



清水総領事説明



中村副知事挨拶



宮本議長挨拶



意見交換



意見交換（清水総領事）



清水総領事とともに

ブラジル日本移民資料館見学

- 1 日 時 令和6年8月30日（金） 11：30～12：30
- 2 場 所 ブラジル日本文化福祉協会ビル7、8、9階（サンパウロ市）
- 3 参加者 〔福井県議会〕
宮本俊議長、細川かをり議員、田中三津彦議員、大和久米登議員、森嘉治議員
和田総務課課長補佐、江守総務課主任秘書
〔福井県〕
中村副知事、大塚産業労働部長、谷口国際経済課企画主査
- 4 同行者 ブラジル福井県文化協会
西村純子会長、川崎省三副会長、西川修治相談役
- 5 応対者 ブラジル日本移民資料館
岩山明朗 運営委員会副委員長

6 概 要

館内の展示品の見学や移民の歴史などについて説明を受けた。
最後に、来館を記念し中村副知事、宮本議長が記帳を行った。

(展示概要)

- 7階の展示場：移民到着前の歴史、移民の先駆者、コーヒー園等での労働、独立農業と集団地（開拓）、植民地「コロニア」の形成、医療体制確保の歴史などを紹介
- 8階の展示場：日本移民による農業、商工業活動や町づくりの始まりと発展、開校と教育目的、第2次世界大戦期および戦後の移民を取り巻く情勢、日本企業の進出などを紹介
- 9階の展示場：戦後の推移、皇室・政府要人の訪問、日系人の各界への進出と活躍、日系企業、日本とブラジルのスポーツ・文化の交流などの紹介、東郷青児作の壁画「移民開拓風景」を展示

(説明要旨（主なもの）)

- ・展示品は、絵画や文化財などを含め、元々移民が持っていて、次の世代にも理解できなくなるので、寄贈されたものも多い。
- ・1888年にアメリカとともにブラジルでは奴隷が解放され、農場で人手不足のため、ヨーロッパ人を連れてきたが定着しなかったこともあり、日本が対象となった。日本では、人口が急増したこともあり、移民政策がとられた。
- ・水野龍氏は、「移民の父」と呼ばれているが、最初の移民が来る前にビジネスでブラジルに来ており、移民のための会社を立ち上げた。

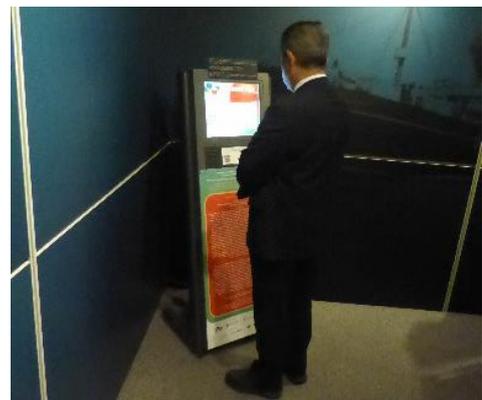
- ・大武和三郎氏は、最初の移民の前にブラジルの戦艦に乗船し、ポルトガル語を勉強して、日本に帰って、初めてポルトガル語、日本語の辞書を作った。
- ・上塚修平氏は、水野龍とともに第1回笠戸丸でブラジルに渡り、その後、ブラジルで植民地を創設し、多くの移民を受け入れた。
- ・各都道府県からの移民は、福井県からの移民は少ないほうであり、熊本や沖縄、北海道が多い。
- ・第1回移民船「笠戸丸」は1908年であり、日本から約52日間を要した。移民は、その後も続き、第2次世界大戦で中断したが、再開して1984年ごろまで続いた。
- ・移民船でサントス港に着くとサンパウロに上り、斡旋所で手続きしてから各地に移動していった。概ね地域は決めてきているが、農場までは決まっていなかった。
- ・日本の移民がブラジルに到着すると、まず日本人会をつくり、その日本人会はまず学校をつくった。成功すれば日本に帰る気持ちがあったので、子どもの教育だけはブラジル人にしようとは思っていなかった。しかし、日本が戦争に負けて、日本には戻らないとなったときにブラジルの学校に通わせるようになった。
- ・移民の渡航資金にはお金を借りていたが、その後返せなかったというのが実態である。
- ・日本移民は自ら農業を始めたのは良かったが、言葉の問題があつて適正な価格で売れないことや、仲買人にとられ利益が出ない課題があつた。このため農業協同組合をつくり、それを經由することにより繁盛するようになった。

《訪問議員による所見や提案》

- ・広大な農地と安住の地を夢見てブラジルに渡った日系移民の人たちの、壮絶な歴史や生活の様子と、その後の発展の過程が理解できた。
- ・渡航前は想像さえしていない過酷な状況だったと推察するが、力を合わせて、知恵を絞り、努力、工夫を重ねて、尊敬を集めるまでになったことは、日系ブラジル人の大きな功績である。
- ・ブラジルは地理的には日本の対極に位置するが、1世紀も前から多くの日本人が移住した地であり、福井県など各都道府県の県人会が存在する重要な国であることが理解できた。



展示の説明（岩山副委員長）



移民検察システム（到着日、出身地等を入力）



移民が持ってきたもの



開拓から入植までのイメージ



「南米へ行こう」というプロパガンダ



コロンビア（植民地）の地図と年表



市街地における移民の活動（商業、教育等）



日本の妖怪画の展示会



日本の皇族の御訪伯



スポーツ・文化の交流



来館記念の記帳



壁画「移民開拓風景」前にて

ジャパン・ハウス サンパウロ視察

- 1 日 時 令和6年8月30日（金） 14:00～15:00
- 2 場 所 ジャパン・ハウス サンパウロ（サンパウロ市 パウリスタ通り）
- 3 参加者 [福井県議会]
宮本俊議長、細川かをり議員、田中三津彦議員、大和久米登議員、森嘉治議員
和田総務課課長補佐、江守総務課主任秘書
[福井県]
中村副知事、大塚産業労働部長、谷口国際経済課企画主査
- 4 同行者 ブラジル福井県文化協会
西村純子会長、川崎省三副会長、山下広治副会長、西川修治相談役
- 5 応対者 ジャパン・ハウス サンパウロ
カルロス・ホーザ 副館長

6 概 要

以下のとおり案内、説明を受けた。

[ジャパン・ハウスの概要や機能]

- ・ジャパン・ハウスは外務省のプロジェクトの一つ
- ・南米における日本の魅力を発信することが目的である。
- ・世界に3拠点あり、ロンドン、サンパウロ、ロサンゼルスになる。
- ・その中から、サンパウロは最初に2017年4月にオープンした。
- ・オープン以来、約400万人が来館している。
- ・3階建ての建物となっている。2つの展示スペースがある。地上階は店舗、カフェ、ライブラリー、1階は店舗、セミナールーム、2階はレストランもある。

[ショップ]

- ・各都道府県の商品を配置してアンテナショップのような形をとっている。
- ・福井県から物産品を置きたいという希望があれば相談してほしい。なお、福井県産品は現在置いていない。（各議員から現地スタッフに対し、置かれている商品の概要、福井県産品の販売や流通の方策などについて聞き取りを行った。）

[ライブラリー]

- ・10のカテゴリーで分かれているが、デザインと美術など、他のカテゴリーと関連づけられた整理としている。
- ・利用者に関心がないカテゴリーに対しても興味がわくよう助言をしている。
- ・福井県の発信をしてほしいというコンテンツがあれば送ってほしい。

[JNTO（国際観光振興機構）ブース]

- ・ブラジルには事務所がないが、管轄をしているニューヨーク事務所と連携して、週末にスタッフが配置され、各都道府県の情報発信などを行っている。
- ・モニターには、各都道府県の紹介映像が流れていた。（福井県は、恐竜博物館、陽養浩館、越前漆器など）
- ・最近の実績では、セミナースペース等において熊本県のくまモンを活用したPRや三重県の忍者に関するイベントなどがあった。

[カフェ（藍染）]

- ・洋風、和風、ブラジルの素材を取り入れたお菓子なども置いている。

[レストラン（藍染）]

- ・美味でバランスをコンセプトとした定食（ご飯、汁物、漬物、おかず）など、多彩な和食メニューを和食器で提供している。

[セミナースペース]

- ・180平方メートルあり、3つの部屋に区切られるようになっている。週末などのイベントに合わせ、セミナールームを開放することもできる。
- ・都道府県を情報発信の希望に応じており、県人会を活用いただいたり、自治体関係者が直接来たりしてイベントを実施してもらっている。
- ・先週は、大阪府主催で大阪・関西万博のPRイベントがあった。一昨日、昨日とパナソニックの新品のイベントがあったところでもある。この7年間、様々な自治体に活用いただいている。（9月22日には、国際交流プログラムによる県立大学による福井県のPRイベントが開催予定であることが報告された。）

[日本のストリート・ファッション展]

- ・日本のストリート・ファッションの歴史を1950年代から10年おきに特集している。
- ・和風から洋風への変化しているところが見どころ。
- ・1950年代…戦後、和風の着物等を経て洋風化し始め、外国のコンテンツに興味を持ち始めた。
- ・1960年代…ミニスカート、パンタロンなど洋風をどんどん取り入れた。
- ・1970年代…膝丈スカートなど自分でつくれるファッションがはやり始めた。
- ・1980年代…経済力の向上によりファッションにお金をかけるようになり、デザイナーが立ち上げたブランドが人気となった。
- ・1990年代…「コギャル」に象徴される女子高校生ブームなど、独自の文化を生み出した。ブラジルの若者にもあこがれられたとのこと。
- ・2000年から現代までは、ゆっくりとした着心地などを優先するファッションに変わってきた。

[『ジャパン・エフェクト：15のファッションエピソード』展]

- ・デザイナーによるオートクチュールの作品の変遷を展示している。
- ・TOKYO2020のメダルセレモニーの衣装を務めた山口壮大氏がコーディネートした。
- ・1950年代からのデザイン、生地も含めストーリー立てで見せている。

- ・時代に応じた露出度や体のラインの出し方やヨーロッパと日本の感性、和風テイスト（着物風、歌舞伎のコンセプト）について解説があった。
- ・ストリート・ファッションの展示とは対照的に日本のファッションの技術力の高さを示すものにもなっている。

〔その他〕

- ・『ドラゴンボール』『鬼滅の刃』など日本のアニメも人気である。『君の名は』など、モデルとなった地域への巡礼でのインバウンド観光は可能性がある。熊本県の『ワン・ピース』ツアーやキャラクターの胴像など、作者の出身地としての取り組みもある。

《訪問議員による所見や提案》

- ・隈研吾氏設計のジャパン・ハウスは、手すき和紙も用いられており、他に竹、布、酒、籠、器など、海外の方々にとっては日本的で魅力的と感じるものを美しく展示されていた。本国の私たちが、もっと自覚して大切にしなければならないことだと感じた。
- ・サンパウロにおける日本のアンテナショップの機能を果たしており、今後、福井県産品の展示・販売につなげたい。



概要説明（ホーザ副館長）



ショップ



ライブラリー



JNTOブース



カフェ



セミナースペース



風呂敷ショップ



レストラン



日本のストリート・ファッション展



ジャパンエフェクト展



ジャパン・ハウス (外観)



ジャパン・ハウス前にて

リベルダーデ地区視察

- 1 日 時 令和6年8月30日（金） 15：30～16：30
- 2 場 所 リベルダーデ地区（サンパウロ市）
 - ・丸海（日本食材店）
 - ・ムラサン（健康食品店・プロポリス専門店）
 - ・ブラジル福井県文化協会交流センター
- 3 参加者 〔福井県議会〕
宮本俊議長、細川かをり議員、田中三津彦議員、大和久米登議員、森嘉治議員
和田総務課課長補佐、江守総務課主任秘書
- 4 応対者 ブラジル福井県文化協会
大谷ひろみ 理事

5 概 要

リベルダーデ地区（東洋人街）の日系人が経営する商店等を視察した。

まず、「丸海」においては、野菜・果物、日用品のほか、日本国内のスーパーにもある日本製の食料品、調味料、お菓子などが多数売られていた。併せて、ブラジル産の同等品も売られていた。日用品や農産加工品など日系人がつくるものも多いとのことである。輸入された日本製は質が良いが価格は高い（例えば、納豆のパックが500円する）。ブラジル国内産は比較的安価である。他の地域にいる日本の駐在員たちは数カ月に1度、日本の食材等を買出しに来ており、「サンパウロには何でもそろっている」とのことである。

次に、プロポリス専門店「ムラサン」を見学し、プロポリスにも、液体タイプ以外に、スプレータイプ、タブレットタイプがあることや濃度も異なるなど多様な商品があった。スプレータイプは、お土産として人気とのことである。（プロポリス：蜜蜂が巣を作るために集めた木の芽や樹液、枝葉、花粉などを自分の唾液で固めたものであり、アルコール等で目的成分を抽出して使用される。）

最後に、リベルダーデ地区内にある、ブラジル福井県文化協会交流センターを見学した。歴代会長の写真や年表、同センター落成記念のプレート（故栗田幸雄元知事（当時）に対する感謝の意）、福井県知事の写真、県観光ポスターが掲示されていた。



丸海（外観）



丸海（日本製の食料品）



丸海（日本の工芸品）



ムラサン（プロポリス商品）



ブラジル福井県文化協会交流センター
（落成記念プレート）



ブラジル福井県文化協会交流センター
（歴代会長、年表）

コロニア・ピニャール（福井村）訪問

- 1 日 時 令和6年8月31日（土） 11:00～15:00
- 2 場 所 コロニア・ピニャール（福井村）（サンミゲル・アルカンジョ市）
文化センター
歴史資料館
日本語モデル校
- 3 参加者 〔福井県議会〕
宮本俊議長、細川かをり議員、田中三津彦議員、大和久米登議員、森嘉治議員
和田総務課課長補佐、江守総務課主任秘書
〔福井県〕
中村副知事、大塚産業労働部長、谷口国際経済課企画主査
〔福井県立大学〕
岩崎学長、石丸教授、川田経営戦略課長、浪指コーディネーター
- 4 同席者 シモネ・マルキット ブラジル連邦議会下院議員 ※来賓
ブラジル福井県文化協会
西村純子会長、川崎省三副会長、山下広治副会長ほか
- 5 応対者 コロニア・ピニャール文化体育協会（福井村）
徳久俊行会長、西川修治前会長、山下治元会長
日本語モデル校
広瀬みどり校長、橋本理沙 JICA ボランティア

6 概 要

コロニア・ピニャール（福井村）に到着し、今年度の福井県への海外技術研修員3名からの花束贈呈による歓迎を受けた。

まず、コロニア・ピニャール文化センターにおいて「歓迎式典」が行われた。

初めに、徳久会長が挨拶し、「福井県からの慶祝団を歓迎する。コロニア・ピニャールは2022年に60周年を迎えたが、福井県には多くの寄付、文化センターや体育館の建設への補助や県費留学生の受け入れなどをいただき、改めて感謝する。福井県人会とともに、末永い関係が続くよう祈念申し上げます」と語った。

次に、来賓として、中村副知事は、「福井村へ来て、ブラジルで村づくりをされた皆様のご苦勞の一端を肌で感じるとともに、弛まぬ努力の上に様々な分野で活躍されていることは誇りである。今年度は福井村から3名に来ていただくが、海外技術研修員の受け入れをはじめ、福井村の日本語モデル校と高椋小学校との絵画交流や、福井村の飛翔太鼓ジュニアチームの福井訪問も行われてきた。福井県と福井村との交流を通じて日本とブラジルの友好交流に寄

与していきたい」と挨拶した。

宮本議長は、「今回の訪問を通じブラジルは非常に遠いところであるが、心の距離は近いと感じている。ブラジルの農業は日系人で成り立ち、ブラジルで最も勤勉な方は日系人だと聞いたが、その中でも福井村の方々の働きは大きいと思う。世代を重ねるごとに日本や福井県のDNAや文化は薄れていくこともあると思うが、100年後もこうして楽しく話ができるよう、福井村をはじめブラジルと福井県との絆を大きく強くしていきたい」と挨拶した。

岩崎学長は、「明日、福井村、福井県人会とで包括協定を締結させていただく。福井県立大学の学生が福井村を訪問し体験や学びの機会を得ることで、ブラジルと福井の文化を理解し、広い視野とコミュニケーション能力もあるグローバルな人材の育成につながる。福井村の児童生徒にも日本の文化をお伝えできる。将来にわたり日本とブラジルの親交が更に深まるよう、次世代の交流についてお力添えいただきたい」と挨拶した。

シモネ連邦議会議員は、「日本の文化や影響は日系人にとって大切であり、本日の式典に多くの方々が集まっていることに大きな意義がある。過去の市長時代には桜の木が私のシンボルであったこと、コロニアや太鼓を支援していることもあり、連邦議員の中でも日系人の代表の立場である。来年、日本や福井県にも訪問予定であり、大変楽しみにしており、また力になりたいと考えている」と挨拶した。

引き続き、食事会が開催され、福井村の方々に移住当初の話を伺うなど、交流を深めた。

食事会の間には、杉本知事からの「福井村には、福井県人会とともに、ブラジルと福井県を結ぶ懸け橋となり、移住者をはじめとする福井県出身者の生活や仕事の間をお支えする大きな役割を果たされている。今後、入植70周年に向けた飛躍を期待するとともに、福井村の皆様方のますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます」との挨拶文が披露された。

また、日本語モデル校の子どもたちによる歓迎の歌と演奏が披露された。

更に、福井県議会訪問団による挨拶があり、森議員は、日本語モデル校と絵画交流を行っている高椋小学校の卒業生として、「若い世代に交流を引き継いでいくことが重要であり、今回の訪問も帰って報告したい」と、大和議員は、「末永い交流をお願いしたい。来県時にはぜひ三国、東尋坊等においていただきたい」と、細川議員は、「教員のころブラジルの日系の児童は大変優秀で真面目であった。今後も日本らしさを教えていただくなどお力添え願う」と、田中三津彦議員は、勝山市の雪の多さや雪かきなどの文化を紹介の上、「皆様と接して、心の距離は本当に近く、福井県という同じ根を持つ仲間として温かい気持ちになった。本日の貴重な機会に感謝申し上げます」と述べた。

歓迎式典終了後は、「歴史資料館」の見学を行った。

記録写真のほか、日本人形などの工芸品、過去の食器、家具、炊飯器やミキサーなど電化製品、ミシン、観光ポスター（東尋坊）などが展示されていた。

なお、当初は、入植当時に土地を買っても家を建てるまでの、当面の住まいとする収用所であり、その後、日本語モデル校が建設されるまで、日本語学校としても利用されていたとのことである。

次に、日本語モデル校横の敷地において中村副知事、宮本議長、岩崎学長が「記念植樹（桜）」を行った。

最後に、「日本語モデル校」を訪問した。

まず、事務室や教室などを見学した。廊下には、交流している高椋小学校児童の版画や習

字の作品の展示もあった。

次に、模擬授業が行われた。子どもたちからの福井県に関する質問に対し、福井県訪問団が答える形で交流を深めた。

(質問内容：福井県の特徴、両国の違い、冬の雪や寒さ、夏の暑さ、イベント、食べ物、自然景観、レジャー、留学制度、海外技術研修)

なお、ブラジルの学校は半日制であり、午後は塾や習い事に行くが、日系人の子どもたちは日本語を学ぶために日本語モデル校に通っているとのことであった。また、日本語モデル校は建設も含め、JICAの支援を受けているとのことであった。

《訪問議員による所見や提案》

- ・福井村は、穏やかで真面目に村の生活を営んでいることが、子どもたちの太鼓、手作りの料理、周囲の果樹園などをはじめ、全体からにじみ出ていると感じた。
- ・大人や子どもを問わず全員で温かく迎えてくれることが当たり前のように行われており、大人たちが子どもたちに日本や福井の伝統文化を教えて受け継がれていると感じた。
- ・日本語モデル校の教育水準は高いことを聞き、今後もブラジルにおける日本人の評価は高く維持されていくだろうと確信した。
- ・日本語モデル校での模擬授業では、今の日本に対する興味・関心の高さを感じた。



福井村入口の記念碑前にて



花束贈呈による歓迎



徳久会長挨拶



中村副知事挨拶



宮本議長挨拶



岩崎学長挨拶



森議員挨拶



大和議員挨拶



細川議員挨拶



田中三津彦議員挨拶



子どもたちによる歌



歴史資料館（西川前会長による説明）



記念植樹



日本語モデル校（高椋小学校の作品）



日本語モデル校（模擬授業）



日本語モデル校の皆様とともに

ブラジル福井県文化協会創立70周年記念式典

- 1 日 時 令和6年9月1日（日）10：00～15：00
- 2 場 所 在伯宮城県人会館（サンパウロ市）
- 3 参加者 〔福井県議会〕
宮本俊議長、細川かをり議員、田中三津彦議員、大和久米登議員、森嘉治議員
和田総務課課長補佐、江守総務課主任秘書
〔福井県〕
中村副知事、大塚産業労働部長、谷口国際経済課企画主査
〔福井県立大学〕
岩崎学長、石丸教授、川田経営戦略課長、浪指コーディネーター
- 4 同席者 〔来賓〕※福井県関係者以外
アリマ・マウロ サンパウロ州知事（代理）
清水享 在サンパウロ日本国総領事
宮崎明博 JICAブラジル事務所長
西尾義弘ロベルト ブラジル日本文化福祉協会副会長
谷口ジョゼ眞一郎 ブラジル日本都道府県人会連合会長
平松オサム サンパウロ市議会議員（マルシオ中島サンパウロ州議会議員（代理））
野村アウレリオ サンパウロ市議会議員
ハト・ジョージ サンパウロ市議会議員
ルイス・アントニオ・デ・カマルゴ アルジャ市長
徳久俊行 コロニア・ピニャール文化体育協会会長
- 5 応対者 ブラジル福井県文化協会
西村純子会長 ほか

6 概 要

「ブラジル福井県文化協会」は、ブラジルの福井県人会として、本県からの移住者の定着安定を図り本県とブラジルを結ぶ唯一の機関である。

今回の同協会創立70周年記念式典には、現地から清水在サンパウロ日本国総領事、アリマ サンパウロ州知事代理等の来賓を含め、約180名が出席した。

同協会桑原理事の挨拶により開会し、ブラジルおよび日本の国歌斉唱後、先没者の霊に黙祷、更に来賓紹介が行われた。

西村会長が主催者として、「皆様の温かいご支援とご協力のおかげで創立70周年を迎えることができた。この記念すべき日に式典に参加していることを私自身光栄に思う。本日の福井県立大学、当協会、コロニア・ピニャールとの協定締結を機に、福井県とブラジル福井

県人がお互いの文化・歴史に理解を深めること、若い世代の育成に尽力していきたい。特に海外技術研修員は様々な分野で技術を学び交流を深めているが、福井県の皆様には、引き続きご指導、ご協力をいただきたい」と挨拶した。

次に、来賓祝辞に入り、中村副知事は、同協会が70年にわたり、ブラジル連邦共和国と福井県を結ぶ重要な懸け橋となり、またブラジルでの福井県出身移住者の活動の拠点として大きな役割を果たしていることなど、歴代会長や会員の功績に感謝の意を表した。また、ブラジルからの技術研修員の受け入れ数が累計203名に上ることや本日の三者締結にも触れ、「今後ますます福井県とブラジルとの若者の交流が盛んになることを願う」と話した。

宮本議長は、これまでの同協会の功績に改めて敬意と感謝を述べた上で、北陸新幹線開業や県内各地の賑わいなど福井県の近況や越前市では県内最多のブラジル人が地域の企業で活躍いただいていることを紹介した。更に、「今回の訪問を通じ、福井県とブラジルにいる皆様の絆を強く感じた。県議会としても、この絆がこれからもずっと続き発展するよう支えていきたい」と述べた。

宮田JA福井県五連会長からの祝辞文として、「移民は大変な苦勞を重ねたが、今日に至り安心して暮らせることは、先人の弛まぬ精神力と貴協会の支えの賜物であり、心より敬意を表する。地球温暖化や食料安定保障問題など世界の農業を取り巻く課題は多岐にわたるが、両国の農業の重要な担い手として交流も深めながら、農業を通じた新たな産業のきっかけづくりにもつなげたい」と朗読があった。

清水総領事は、1913年の福井県からのブラジルへの最初の入植、1962年のコロニア・ピニャールの創立の歴史を紹介し、「文化協会をはじめ福井県からの移民は早くから会員相互の親睦を図り、海外技術研修員、留学生事業等の交流や後継者育成に努めた結果、両国の親善国際交流に成果を上げている。日系社会の発展、福井県人の活躍のみならず、日本で就労する日系人の支援、両国の協力関係に大きな役割を果たされることを期待する」と語った。

宮崎JICA所長は、「ブラジルでは、コロニア・ピニャールを通じて福井県と連携してきており、1990年代末からは海外協力ボランティア事業において、福井県出身者に多く参加いただき、日系社会への支援としては特に日本語教育、スポーツ分野で活躍いただいている」と述べ、今年のサンパウロ日本祭りにおける福井県のPR活動も紹介した。

他に、アリマ サンパウロ州知事代理、西尾日本文化福祉協会副会長、野村アウレリオ、ハト・ジョージ両サンパウロ市議会議員からも祝辞が述べられた。

次に、海外高齢者表彰式が行われ、受賞者29名の氏名が読み上げられた後、代表して西田静子氏に対し中村副知事から表彰状および記念品が授与された。

続いて、ブラジル福井県文化協会への長年の功労者表彰式が行われ、石津黎子氏に対し、西村会長から表彰状および記念品が授与された。

続いて、ブラジル福井県文化協会の元会長としての功労者表彰式が行われ、受賞者5名の氏名の読み上げられた後、代表して有明正一氏に対し、西村会長から表彰状および記念品が授与された。

次に、福井県立大学、ブラジル福井県文化協会、コロニア・ピニャール文化体育協会の三者による包括連携に関する協定の締結式が行われた。

まず、岩崎学長から、「ブラジルの福井県人と、次世代の担い手である学生等の若い世代の国際交流を推進するとともに、日本とブラジルの異なる文化の相互理解の促進を図ること

を目的としており、皆様方のお力添えを賜りたい」と協定の趣旨を説明した。

続いて、それぞれの代表である岩崎学長、西村会長、徳久会長による協定書への署名の後、協定書が取り交わされた。その後、代表者3名による記念撮影、大学設置者である福井県の代表として中村副知事、宮本議長も交えての記念撮影が行われた。

次に、福井県、福井県議会、福井県立大学とブラジル福井県文化協会との間などで、協力金や記念品等の贈呈が行われた。

次に、日系3団体を代表して谷口都道府県人会連合会長から、「ブラジル福井文化協会の創立70周年を迎えることは、創立以来、会員が固い絆で結ばれ、歴代会長や会員の皆様のご努力の賜物である。コロニア・ピニャールの日本語モデル校の卒業生は日本語を修得した人材として日本企業などで活躍している」などと福井県人の功績をたたえ、謝辞を述べた。

続いて、2023年に研修員として来県し、建築監理を学んだセト氏から、技術研修員を代表して、「この研修が40年も続いているのは、技術の継承だけでなく、そこで生まれる人間関係があるからだと実感した。温かく迎え入れてくれた福井県には深く感謝しており、他の技術研修員とともに福井県とのきずなをつないでいきたい。今後もこの研修制度が続くことを願う」と謝辞を行った。

最後に、桑原理事の閉会の辞により、式典は終了した。

引き続き、記念祝賀会が行われ、福井県内で製菓技術を学び、現在洋菓子店を経営する技術研修員OGの作ったケーキでのケーキカットや、コロニア・ピニャール和太鼓部「飛翔」の演奏、健康体操の披露、参加者を交えてのイッチョライ節の踊りが行われた。



記念式典



西村会長主催者挨拶



中村副知事祝辞



宮本議長祝辞



海外高齢者表彰



功労者表彰（長年）



功労者表彰（元会長）



包括連携に関する協定の締結



協力金贈呈



技術研修員OB代表謝辞（セト氏）



ケーキ・カットセレモニー



コロニア・ピニャール和太鼓部「飛翔」

福井県海外技術研修員OB、OGとの懇談会

- 1 日時 令和6年9月1日（日）15:00～16:00
- 2 場所 在伯宮城県人会館（サンパウロ市）
- 3 参加者 [福井県議会]
宮本俊議長、細川かをり議員、田中三津彦議員、大和久米登議員、森嘉治議員
和田総務課課長補佐、江守総務課主任秘書
[福井県]
中村副知事、大塚産業労働部長、谷口国際経済課企画主査
[福井県立大学]
岩崎学長、石丸教授、川田経営戦略課長、浪指コーディネーター

ブラジル福井県文化協会会員
福井県海外技術研修員OB、OG（25名）

4 概要

まず、出席したOB、OGから、福井県における技術研修の内容、帰国後のブラジルにおける仕事等の内容について紹介があった。

研修内容と直接的ではなくても、日本語を活用した仕事に就かれた方、日系企業への就職につながった方、起業した方もおられた。

研修以外にも、多角的な視点を得られたことや、福井県の雪等の自然環境や観光地、伝統工芸、文化などが貴重な経験や思い出となったとの感想が述べられた。

（以下、研修先の例（→：帰国後の職業等））

- ・法律事務所 → 弁護士
- ・建築事務所 → 建築士
- ・企業（繊維、電気設備、金融、医療、製薬等）
- ・IT企業 → システム会社、プログラマー
- ・洋菓子店 → 洋菓子店経営
- ・県農業試験場 → 農業
- ・県工業技術センター → 製造業
- ・自治体・学校 → 日本語教師
- ・大学
- ・報道機関

次に、意見交換に入り、中村副知事は、「福井を思い出しながら話していただいたことが嬉しく、大切に思っていることをひしひしと感じた。新たな企業、老舗など受け入れ先は我々としても開拓していきたい。研修の期間や人数の変動はあるかもしれないが、技術研修制度は継続していきたい」と述べた。

宮本議長は、「皆様に共通していることは福井県におられたということである。日本語のスキルを維持いただきながら、仕事にかかわらず日本や福井との絆やつながりを持ち続けていていただくようお願いする」と語った。

岩崎学長は、「研修期間は、日本の学生のように一人暮らしで食材はスーパーに買い出しをする生活だったのか、それともホストファミリーでの生活だったのか」と質問し、学生のような生活が大多数との結果を受けて、「今後の大学への研修生受け入れの参考にしたい」と話した。

大和議員は、「ブラジルの皆様は誠実な方が多い、逆に日本人は誠実さがなくなってきていると思う。「飛翔」の太鼓は世代の幅があるが、日本では異なる世代が一緒に何かをすることも少なくなっている」との感想を述べた。

細川議員は、「福井は、バスや電車ではなく車社会であるが、福井県での移動はどうしていたのか、苦勞していなかったか」と質問した。

これらに対し、出席したOB、OGからは、以下のような意見や回答があった。

「福井県にある伝統工芸などの会社の研修や体験が行えると良い」

「6か月間の研修期間を長くできると良い」

「福井県民は、福井には何もないとよく言うようであるが、福井の良いところはたくさんある」

「技術研修当時に関わった人とSNSなども含めて今でも交流が続いており、福井の人からブラジルと関係を深めたいとの思いも聞いている」

「短期間ではあったが一般家庭に宿泊し、仕事や学校など毎日の生活を教えてもらい、飲食店にも案内してもらい、とても良い経験であった」

「研修先の近くに住んでいたときは問題なかったが、研修先が遠くが変わってからは大変だった」

「自転車は便利であり、よく利用していた」



意見交換



海外技術研修員OB、OGの皆様とともに

《訪問議員による所見や提案（訪問全体に対する内容も含む）》

- ・遠く福井の地を離れ、ブラジルにて生活をされている人たちの苦労についても認識を新たにするとともに、各訪問先において、福井県訪問団への温かい歓迎をいただき、福井県への思いや、常にコミュニケーションができる場を願われていることを痛感した。県議会としても、その絆を切ることなく、維持・発展させるための努力が必要であると考えます。
- ・県人会の方々には、従前の訪問のことも鮮明に覚えており、福井県とのつながりは、そうした細かい事の積み重ねで強固な関係になっていると考えられる。この先、世代が変わっても温かなつながりは変わらないと感じた。
- ・県人会は長い歴史の中で、日本人、福井県人が定住するための意義深い活動を展開し、人々の融和と結束を図りながら、更に海外技術研修員の派遣などを通じ、優れた人材を育成してきたことを理解した。今回の訪問を機会に、来県した海外技術研修員などに対し、先人の地である日本、福井県を紹介し、認識を深めていただく一助となりたい。
- ・ブラジルに移住された方から福井県への愛着などを伺うことができた。今後は、移住に至った思いやその時代の背景を考えながら交流を深めていくことが必要だと感じた。
- ・海外技術研修員の研修先は、福井県内の企業・行政等と多岐にわたっており、今後とも日本とブラジル、福井県とサンパウロの懸け橋として活躍してほしい。